

留学生「公平」名前連呼に疑問



12衆院選

16日投票に向け、舌戦が繰り広げられている衆院選は、外国人の目にも映っているのだろうか。80か国・地域から2463人の留学生が学ぶ立命館アジア太平洋大学(大分県別府市)で学生に聞いた。

「日本の民主的な選挙制度が素晴らしい」と語るのは、ミャンマー出身のアジア太平洋学部4年テイン・タイ・ウインさん(26)。母国では2010年にやっと総選挙が行われたが、民主化のシンボルであるノベル平和賞を受賞したラウ・サン・スー・チーさんの選挙活動は認められなかった。

街頭演説を見て、「候補の頑張りぶりは伝わる。た

大分・立命館アジア大 日本の選挙に感想様々

選挙公報に入る(左から)タイさん ナテラさん アサームさん(日、大分県別府市の立命館アジア太平洋大)



だ足を止める人は少なく訴えが聞いているのかな」と思う。

同部4年ナテラ・ジマリさん(22)は09年にインドネシアから来日。母国では、歌手が候補の応援に駆け付け、コンサートを開くなどにきやみになるといふ。衆院選では、選挙カーで名前の連呼が目立つといふ。「候補がどんなよを考えているのか、政策を地

道に訴えることが大事では」と話す。

スリランカから来日した国際経営学部2年モハメッド・ナズィール・モハメッド・アサームさん(22)は、選挙ポスターの掲示板にびっくり。母国の選挙は、候補者の資金力で広告やポスターの大きさが変わるといふ。「日本は公平。誰が立候補しているのか一目でわかる」と感心していた。

日本の若者に注文も。同部3年高橋さん(23)は、大統領選真っ最中の韓国出身。母国の友人と大統領選について交流サイト「フェイスブック」で語り合う。日本の学生は選挙の話をは

ほとんどせず、関心が低いと感じる。「国の将来を決める一票を投じ、国民として政治に参加するのは大切なことだ」